令和２年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和２年１２月２３日（水曜日）

開　　会　　午前１０時００分

閉　　会　　午前１１時４９分

〇会議に付した事件

協議事項

１．移住定住のアンケート調査について

２．地域おこし協力隊との懇談について

３．政策研究会この１年を振り返って

４．令和３年政策研究会の年間計画について

〇出席委員（８名）

座　長	大渕紀夫君	副座長	佐藤雄大君
委　員	西田祐子君	委　員	氏家裕治君
委　員	久保一美君	委　員	長谷川かおり君
委　員	貳又聖規君	委　員	森　哲也君

〇欠席委員（なし）

〇職務のため出席した事務局職員

事務局長	高橋裕明君
主　査	小野寺修男君
主　任	村上さやか君

人口減少に対応する政策研究会（第 10 回）

【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

１．移住定住のアンケート調査について

○髙橋局長　ウポポイ職員へのアンケートはアイヌ民族文化財団から、他の団体と同時に行ってほしい旨の話があった。
○大渕座長　アンケートの内容はよいと思うが、手法について再確認する。
○髙橋局長　企業の総務担当へ依頼して、対象者の人数を確認し、調査票を渡しに行き、後日回収する。
○西田委員　調査票には一つずつ封筒を用意し、それに入れて回収することで個人情報を守るようにした方がよい。
○大渕座長　グループに分かれて、各企業へお願いしに行く。対象事業所としては 15 か所ある。ナチュラルサイエンス（虎杖浜）、日本製紙（北吉原）、北昭興業（北吉原）、敷島ファーム（竹浦）、フォーレ白老（竹浦）、北海道リハビリテーションセンター（竹浦）、愛生園（竹浦）、フロンティア（白老ほか）、ダイエットクック（石山）、ライラックフーズ（石山）、阿部牛肉加工（石山）、永楽運輸（社台）、アイヌ民族文化財団（白老）、白老自衛隊（白老）、役場（白老）。
　２月の始めに訪問し、月末まで回答してもらい回収に行き訪問の分担とスケジュールを決める。訪問は２人１組がよい。
　１月 27 日の政策研究会は分担確認をし、訪問時のアンケートを配付する。２月はアンケートを実施し、３月は分析をする。

２．地域おこし協力隊との懇談について

○大渕座長　地域おこし協力隊との懇談会は延期していたが、1 月 13 日 13 時 30 分から 15 時 30 分の予定で開催したい。

３．政策研究会この１年を振り返って

○氏家委員　若者の人口増を考えて取り組んできた。若い人をどう呼び込むのか。そして、今暮らしている町民をどう守っていくのか。その上で人口を増やしていく必要がある。白老町の付加価値をつけ、差別化を図るために何ができるのか。
○西田委員　私たちがどのようなまちづくりをしたいのかがありそうでなさそうな感じである。高橋局長からの資料と氏家委員の意見をからめて考えると少し先が見えそうである。
○長谷川委員　トータルブランドによるまちのイメージづくりの話が 10 月 28 日の研修会で出されていた。インターネット検索で情報収集できるようになればよい。
○久保委員　高齢化率の高さは定年退職者を対象に温泉などで移住を誘導した結果かもしれない。人口減少が進んでいて、町内会の再編成が必要であるが、人が減っても町内会の体制はそのままであり、それが余計に勢いを落としてしまう。人が減ったら減ったなりの組織づくりをする必要がある。まちに来る人はそれを感じるのではないかと思う。
○森委員　様々な議論を通して町内の現状を再認識した。ウポポイを契機に人口減少を多少食い止められると思っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか芳しくなかった。
○貳又委員　このまま議会と行政だけで取り組んでいては、状況として危ういと感じている。ニセコ町、遠野市、鯖江市、海士町、西粟倉村（厚真と連携）など参考にできるところがある。白老町は手仕事のまちとして生かせないか。先を見据えた行政組織をつくることや国から情報を収集することが重要である。

○佐藤副座長　何をしなければならないかをよく考えて検討してきた。若者の声を届けるよう努めてきた。実際に聞くことが重要であるため、懇談を増やしたほうがよい。
　行政の職員の多くは若者と同世代ではないため、行政がいくら頑張っても若者を増やすことはなかなか難しい。若者は若者が増やし、そして、今いる人をどれだけ大事にできるのかである。
○大渕座長　我々議員は現状を正しく押さえているのか。若い人を若い人が呼ぶという視点は重要である。
○氏家委員　若い人たちは何かをやってみたいという気持ちがあり、まちに来てくれる人に対してありがたいと思っている。自分たちはそこから何を学ぶのか。高齢者も若者も暮らしやすいまちを目指したい。自分たちの常識は若い人にとっては常識ではないのかもしれない。
○貳又委員　ポストイットで意見出しをして、過去、現在、未来と設定すると、未来にはポストイットが貼られにくい。未来を考えて語れない人がほとんどなのである。
　文化や芸術は自賄いが難しいため、行政の力添えが必要となるものである。白老町が日本のトップランナーとなるようにするべきである。白老町はポテンシャルがあるにもかかわらず、活用ができていない。既存のものがあって、それを打破することが難しい。
○氏家委員　文化芸術活動には人が集まるため、それにより経済効果が生まれ、関係人口が増えていく。白老町はもっと国と関わる必要がある。
○大渕座長　年齢が上の人は金を出し、口は出さず。若い人に頑張ってもらうような話を今井氏が講演会でしていたと思う。自分の若い時の話をしても駄目なのである。私たちの感覚を変えていかないと、新しいまちづくりができないのかもしれない。これは違うと思われるものは取り除いていく必要があるのかもしれない。
○氏家委員　一般的に行政は変わらないものであるし、変えるのには時間がかかる。行政と若い人のやる気を商工会などの民間につないでもらいたい。行政には求められないものがあるため、民間としてやっていけるものに力を貸す組織があればと思う。
○髙橋局長　政策形成の前には政策研究が必要だと唱える学者がいる。今の行政はそれがなく、担当者が一人でつくるためうまくはいかない。その結果、担当者が変わるとそれまで取り組んできたことの意図が分からず継続させられない。
　同じことでも意味を理解せずに取り組むのと、理解した上で取り組むのは結果が異なる。目標を把握した上で挑戦しなければならない。
○佐藤副座長　行政のお金がないからできないで終わらせず、議会から提示していく必要がある。今後、動いていく政策研究会にならなければならない。
○西田委員　九州の博物館には応援隊がいて、議員も派遣されている。議員は年ごとに入れ替わる。議員と博物館がつながりを持ち、情報共有されている。
○髙橋局長　今回配付している資料は、突破口を見つけるためにも活用していただきたい。若者の力があり、若者が集い、それをサポートする人材・キーマンがいる。一番は地元の資源である。白老町でいえばアイヌ文化がある。鳥の目と虫の目の両方をあわせることがポイントである。

４．令和３年政策研究会の年間予定について

○髙橋局長　この機会にワークショップをして、ＫＪ法で書き出して、政策研究会のこれまで話し合ってきた内容について洗い出しをして、体系的に整理してはどうか。
○大渕座長　ワークショップを行い、政策研究会の検討を振り返り、問題や課題の整理をして、３月にその内容について話し合う。